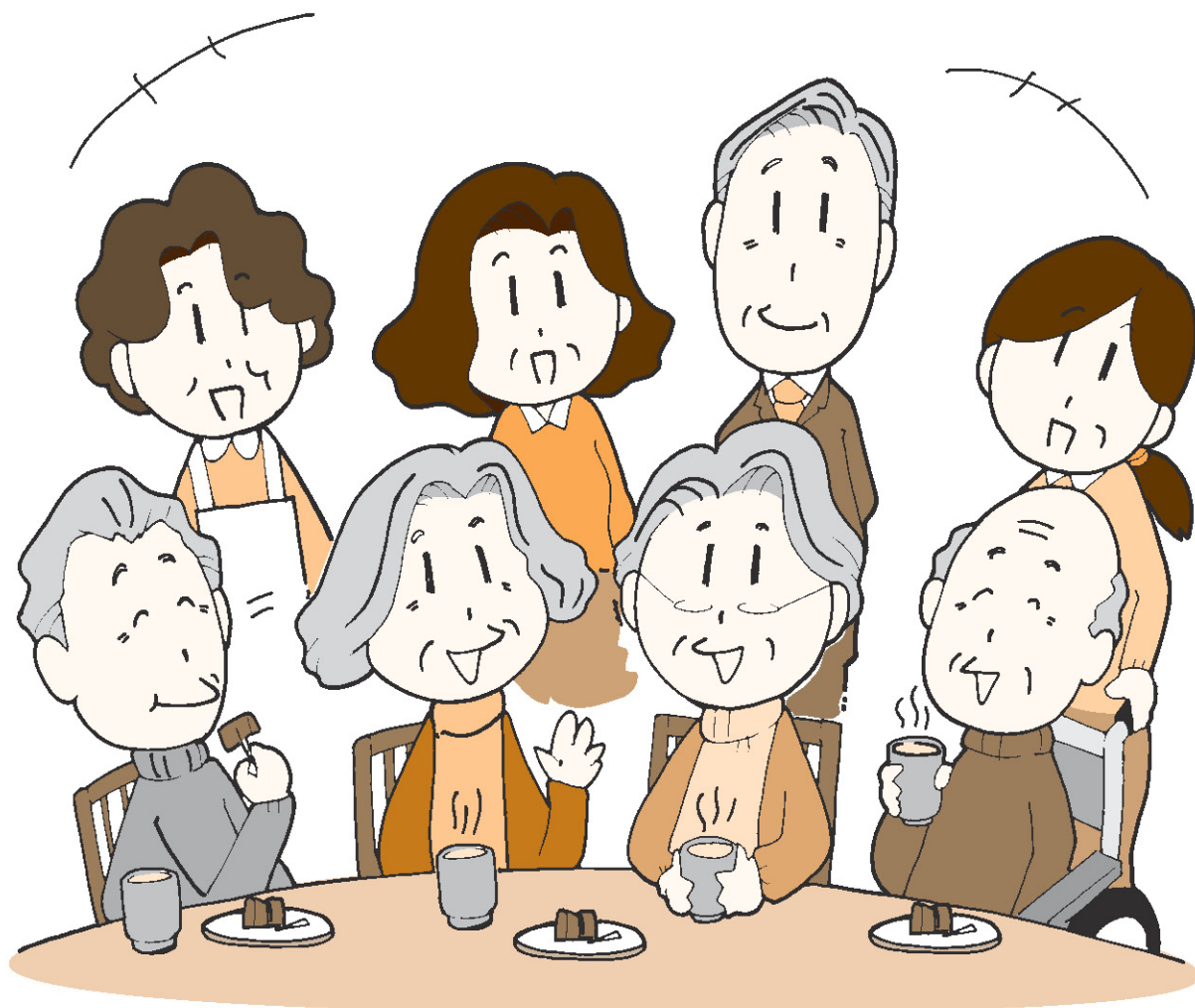


# 「みんないいひと」物語

～出会い ふれあい 支えあい～



「みんないいひと」は、相模原市社会福祉協議会にとって、重要なキーワードです。福祉まんがのタイトルも「みんないいひと」、社会福祉大会のサブタイトルは「市民みんないいひとの日」、広報紙の名称も「みんないいひと」です。本計画の愛称も「みんないいひとネットワークプラン」です。一人でも多くの「いいひと」がうまれることにより、誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」ができるのではないかと思います。今回、本計画の重点事業をわかりやすく伝えるために、「みんないいひと」物語をつくりました。この物語が今後の活動のきっかけになれば嬉しく思います。なお、この物語はフィクションです。

## 【主な登場人物】



### ●高橋さん

一人暮らし  
(70歳)

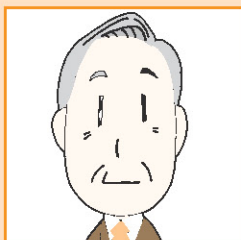
ご主人の仕事の都合で、60歳の時に「いいひと地区」に引っ越して来たため、あまり近所に知りあいはいない。ご主人も3年前に亡くなられ、現在一人暮らし。



### ●鈴木さん

民生委員・児童委員  
(56歳)

民生委員になって3年目、最近、近隣の人間関係の希薄化が気になっている。自分の担当する地域にも、閉じこもりがちな高齢者が増えてきており、何か出来ることはないか考えている。



### ●渡辺会長

いいひと地区社協会長  
(64歳)

生まれたときから「いいひと地区」に住んでいる。永く自治会の役員を担ってきた。地区社協の会長は定年後の60歳からしており、4年目を迎えている。誰もが住みやすいまちづくりに向け、住民の輪を広げていくことを考えている。



### ●小林さん

ボランティア  
(50歳)

子供が大学生になり、子育ても一段落した。何か高齢者のためにボランティア活動をしたいと思うようになり、ボランティアセンターに来所し、「サロン立ち上げ研修会」に参加することになった。



### ●伊藤さん

ボランティア  
(35歳)

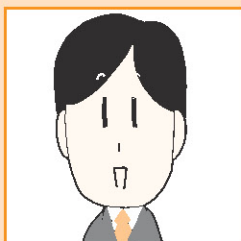
小学生2児の母親であり、子ども会の役員をしている。最近、少子・高齢化や核家族化の現状に、何か出来ないかと思っており、「サロン立ち上げ研修会」に参加することになった。



### ●佐藤さん

息子夫婦と3人暮らし  
(72歳)

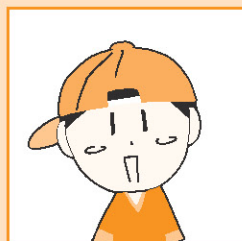
5年前にご主人を亡くされ、最近若手県より息子夫婦のいる「いいひと地区」に引っ越して来た。息子夫婦とは同居しているが、二人とも仕事に就いているため、日中は一人きりになることが多い。



### ●阿部さん

市社協職員  
(32歳)

市社協の職員になって10年目を迎え、地域福祉の推進に向け仕事に励んでいる。現在、「いいひと地区社協」の支援を担当している。

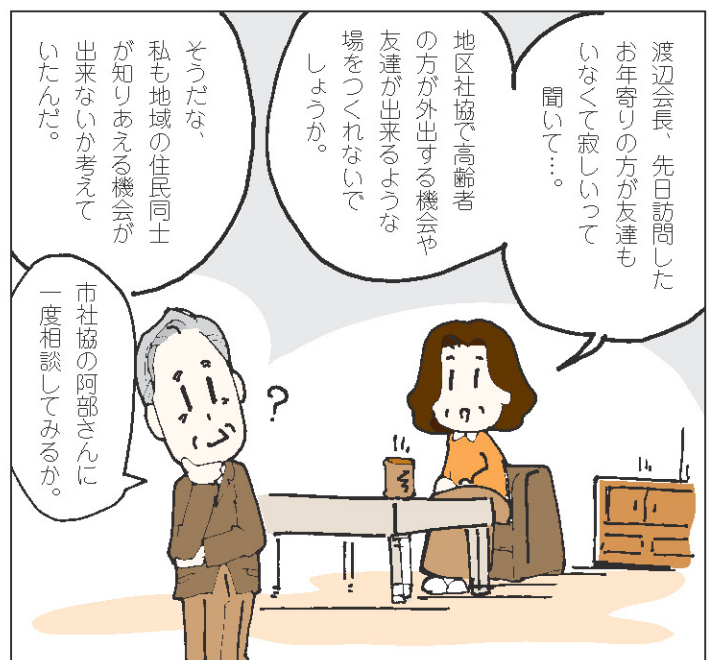


### ●こうたくん

いいひと小学校4年生  
(10歳)

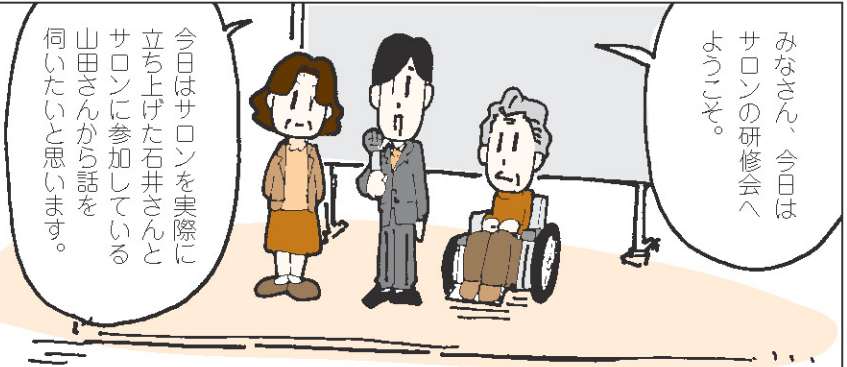
「いいひと小学校」の4年1組で福祉委員に選ばれた。福祉委員の仲間と「いいひと地区」で開催しているサロンに遊びに行くことになった。

# いいひと地区みんなはどうしてる？



# サロンってなんだろう？

## サロン立ち上げ研修会



### ポイント①

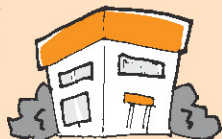
#### 「サロン立ち上げ支援」

サロンに興味・関心のある人を対象に、サロンの意義や運営方法を学ぶ研修会を開催するなど、地区社協と連携してサロンの立ち上げを促進します。

### ポイント②

#### 「いるかバンク(ボランティア登録制度)」の充実

広く福祉人材の登録の仕組みとし、高齢者や障害者等の方の登録も推進を図り、地域の福祉講座や学校における福祉体験学習の講師として自ら地域に向けて情報提供・意見を発信する機会を促進します。



# いいひと地区にサロンを立ち上げよう！



地域福祉ネットワーク推進連絡会議

## ポイント③

### 「地域福祉ネットワーク推進連絡会議」の開催

地区社協と市社協の協働により、小圏域における自治会、民生委員・児童委員、支えあい活動団体、NPO、福祉事業者等、幼稚園、学校等教育機関との福祉課題の共有、課題検討の場をつくります。



## ポイント④

### 「ふれあい・いきいきサロン」開催場所

サロンの開催場所は、日常歩いて行ける範囲で、費用をかせずに、誰もが気軽に参加しやすい場所が良いです。

例えば、自治会館、団地の集会所、公民館、福祉施設、個人の自宅など。



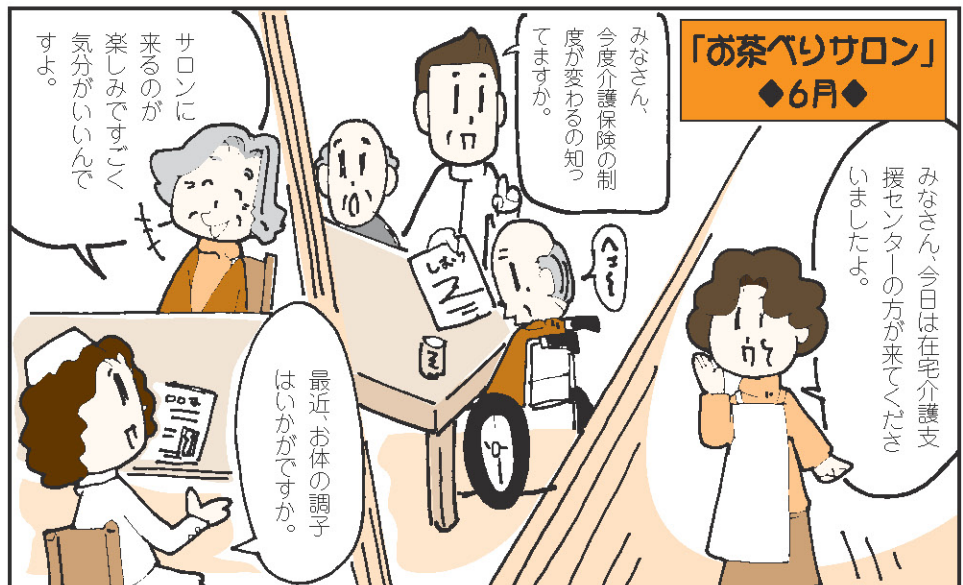
# いいひと地区サロン始動その名は..



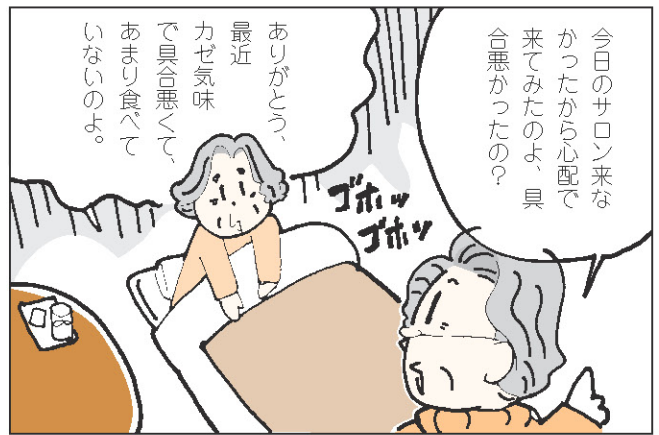
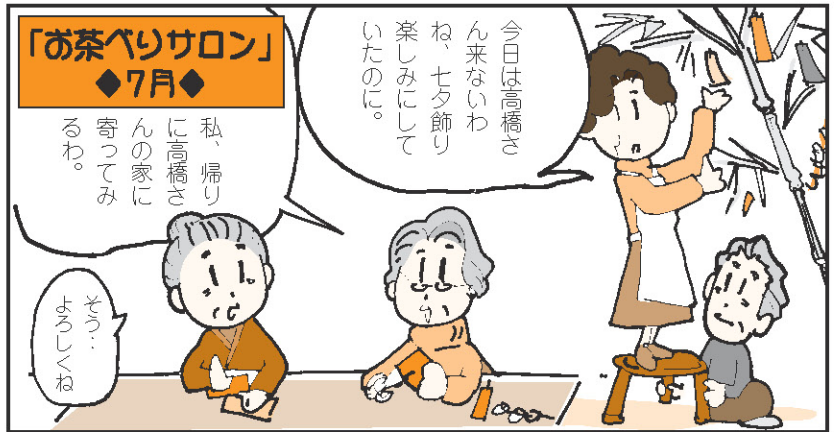
## ポイント⑤

### 「ふれあい・いきいきサロン」 専門機関の関わり

サロンに在宅介護支援センターや地域の福祉施設の職員が参加し、健康チェックや栄養相談などの専門性を生かした支援や福祉サービスの情報提供をしていくことが大切です。



# サロンから生まれる助けあいの輪



**ポイント①**

「ふれあい・いきいきサロン」見守り・助けあい

サロンに参加することで、近隣に知りあいが増え、そこから見守りや助けあいの活動へとつながっていきます。



# 広げようサロンの輪



## ポイント⑦

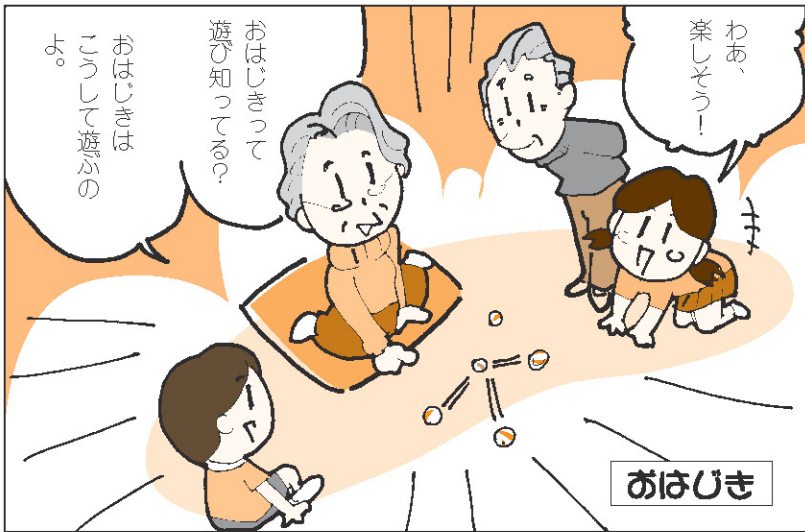
### 「ふれあい・いきいきサロン活動実践交流会」の開催

サロン活動の支援者を対象に、情報交換・取り組みの課題検討等を行います。将来は、サロンの設置数に合わせて地区社協単位に開催される「地区別サロン支援者連絡会議」に移行します。





# 育てよう地域交流の芽



## ポイント③ 「ふれあい・いきいきサロン」の交流

サロンに子どもたちが参加することにより、世代間の交流が生まれます。また、他の高齢者のサロンや子育てサロンなどと交流することにより、地域での出会いの輪も広がってきます。



# サロンから広がる地域の輪

